

現代中国語における日本語からの借用語に関する一考察

呂 雨 珊

1. はじめに

21 世紀に入ってから、インターネットの爆発的普及やアニメ産業などの新興産業の活況によって、大量の日本語新語が特に中国の若者層の間で頻繁に使われるようになった。これまでの借用語研究の歴史を振り返ると、多くの研究者がこの問題について多大な貢献をしていることが分かる。また、それに関連する文献や資料も枚挙に暇がないと言える。

このような中、高名凱・劉正琰 (1958) はその著書である『現代漢語外来詞研究』で、日本語からの借用語を翻訳借用語と音訳借用語に区別して考えるべきであると主張している。王立達 (1958) は 1958 年『中国語文』第二号に掲載された「現代漢語中従日語借来的語彙 (現代中国語における日本語から借用した語彙)」という論文において、日本語からの借用語を九種類に分け、それらを具体的に分析した。Federico Masini (1993) は『現代漢語詞彙的形成』の中で更に、「原語借詞 (original loan)」と「回帰借詞 (return loan)」の新しい概念を提起した。特に沈国威 (1994) はその研究の集大成である『近代日中語彙交流史』で日中間の語彙交流の史実を研究の対象として、日本語借用語の創造過程及び伝播過程を系統的に論述した。

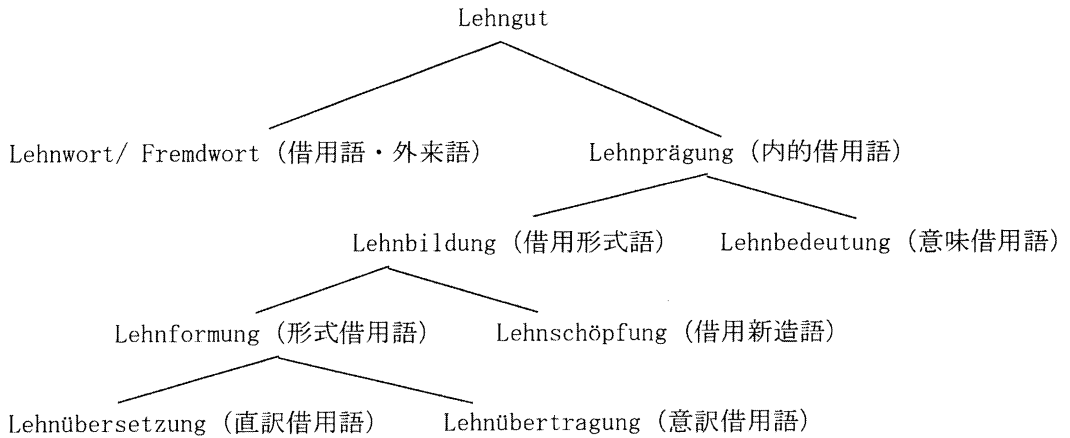
しかし、日中間借用語に関する研究は主に近代¹の新語を中心としたものが多く、それに比べて、現代²の借用語に関する研究が少ないイメージがある。近代借用語は中国人留学生により翻訳され、次第に中国語に定着したのに対し、現代借用語の伝播ルートは極めて多様である。特にインターネットの普及により、常に最新の情報が得られるため、現代中国語における借用語の伝播には即時性や広域性などの特徴がある。したがって、現代中国語の借用語を再分析する必要があると考えられる。

本稿は主に現代中国語の新語に於ける日本語からの借用語を中心とした従来の研究結果に基づいて中国語の借用語を考察する。すなわち、これまで分析されていない中国語の新語における日本語借用語を具体的に分類し、その結果に基づき、これらの借用語がどんな特徴を持っているのかを明らかにしていくことが本稿の目的である。

2. 先行研究

2.1 借用語の総合的な研究

ここで飯嶋（1987）と鈴木（2002）の用語説明に基づき、最も詳しい借用語の分類として Betz（1974）の分類法を以下に引用する。



以上を図に示す。

- ①借用語 (Lehnwort) : 他言語から外的な形態を借用する。
- ②外来語 (Fremdwort) : 外国語から入ってきた語彙のうち、外来の意識がまだ強く残っている語彙を指す。
- ③内的借用語 (Lehnprägung) : 他言語から単語の意味内容を自国語へ借用する。
- ④借用形式語 (Lehnbildung) : 他言語から単語の意味内容を自国語の素材で新しく作る。
- ⑤意味借用語 (Lehnbedeutung) : 他言語から意味内容をすでに存在する自国語で表す。
- ⑥形式借用語 (Lehnformung) : 他言語から形態素による借用。
- ⑦意訳借用語 (Lehnschöpfung) : 他言語のモデルが単に自言語における翻訳語の新形成への刺激を与えるだけで、いかなる形式的模倣もなされないような借用形成。
- ⑧直訳借用語 (Lehnübersetzung) : 他言語モデルの厳密な逐語訳。
- ⑨部分的意訳語 (Lehnübertragung) : 他言語のモデルの一部分のみが厳密に模倣され、他の部分についてはより自由で独自の処置がなされる借用形成。

前述の Betz の分類法はより厳密にドイツ語の借用語の特徴に合わせてそれらを分類し、更にヨーロッパ諸言語に適用することも想定している。しかし、これが日本語からの借用語の分類に適切かどうかについてはいまだ疑問の余地がある。

したがって、各言語の特徴を合わせて分類する必要がある。

2.2 中国国内における日本語からの借用語に関する研究

2.2.1 王立達 (1958)

王は「日本語の中に多くの古漢語からの借用語彙があるように、現代中国語の中に現代日本語からの借用語がある」と指摘している。また、借用語を以下の9種類に分けた³。

1. 漢字で書いた日本語の音訳語
2. 漢字で書くが、訓読みがあつて、音訳はないもの
3. 日本人が意識法で訳した外国語語彙
4. 日本語からの借用語だが、意味が異なるもの
5. 古い漢語を日本人が借用し、西洋の近代語を訳したもの
6. 字形、意味とも日本人が作成したもの
7. 中国人が日本語を翻訳する際に作ったもの
8. 二十世紀のはじめに使われたが、その後、不使用のもの
9. 協和語

以上の分類を見ると、王の分類は語義と音形に基づくものであることが分かる。王の分類は詳しく厳密であるが、現代中国語の日本語借用語に適しない分類がある。例えば、⑧⑨類の分類は既に不要である。

2.2.2 高名凱・劉正琰 (1958)

20世紀50年代末、中国初の外来語研究書『現代漢語外来詞研究』が出版された。その著者の高名凱・劉正琰は外来語とは必ず外国語から音形と意義のいずれも自己の言語に移入しなければならない語であると考えている。なお、彼らが、日本人が西洋の書物を翻訳した際に、日本語の造語成分である漢字を用いて欧米諸言語の語彙を意識した「意識語」は借用語だと認めないのに対し、本稿では中国語においては、日本語からの語彙がその文字と意味をひっくるめて取り入れられているため、それらの語を「借用語」として認めた。

高と劉は更に前述の王立達の分類案に基づき、日本語借用語を以下の三種類⁴に分類した。

1. 純粋日本語（すなわち日本語に元から存在し、しかも漢字で欧米語彙要素を翻訳したものでない日本語の単語）を来源とする現代中国語の外来語。

例：場合、解決、経験、権威など。

2. 日本人が古代中国語に元から存在した単語で欧米諸言語の単語を「意識」し、さらにこれらの日本語の外来語に基づいて中国人によって改造されて生まれた現代中国語の外来語。

例：文学、分析、芸術、博士など。

3. まず日本人が漢字の組合せにより欧米諸言語の単語を「意識」(または部分的に「意識」)し、さらに中国人が現代中国語に移入し、それらを改造して生まれた現代中国語の外来語。

例：美術 (art)、代理 (agency)、物質 (matter)、直覚 (intuition) など。

上に述べたように、高と劉は「音訳借用語＝借用語」という基準に従い、言語学的に定義された語は音形と意義の結合物でなければならないとして、意味のみ移入される「翻訳語」は「借用語」とは認めない立場を取っている。

2.2.3 Federico Masini (1993)

1. 音訳借用語 (phonemic loans)
2. 混合語 (hybrids)
3. 語形借用語 (graphic loans)
原語借用語 (original loans)
回帰借用語 (return loans)
4. 意訳語⁵ (semantic)
5. 翻訳借用語 (syntactic loans or loan-translations)
6. 本族新語 (autochthonous neologisms)

Masini によると、「語形借用語」とは意味だけでなく、字形もそのまま受容した語であり、元々の発音にこだわることなく、自国語で発音する語を意味する。日本語からの借用語については、それらは更に原語借用語 (original loans) と回帰借用語 (return loans) に下位区分される。

3. 日本語借用語の分類

新語は日々増加し、変化しているため、様々なルートを通じて最新の情報を集める必要がある。一般的には権威のある辞書を調べるのが最も簡単な方法である。無論、辞書にすべての新語が収録されるわけではない。むしろ常に新語の誕生により遅れるのが普通である。そこで、辞書のほか、論文や新聞などを利用し、現代中国語の新語における日本語からの借用語を収集する。

主に下記の三つの方法を通じて、借用語を収集する。

- (1) 辞書や専門書
- (2) 新聞や雑誌
- (3) 論文

抽出基準⁶：(1)辞書や専門書で日本語が語源であることが明記されているか。

(2)記事の中で言い換えがされているか。

(3)論文ですでに研究対象として取り上げられているか。

以上の基準に基づき、対象語彙計 180 語を抽出した。なお、商品名、企業名などの新語は対象外である。

3.1 音訳借用語

「音訳借用語」は王（1958）の分類案による「漢字で書いた日本語の音訳語」という分類に当てはまる。「音訳借用語＝借用語」という理論から考えてみると、同じく漢字を用いる日本語からの音訳借用語は他の外国語からの借用語とは異なり、現代中国語における日本語からの借用語の全体数の中でかなり少ないことが分かる（下記表 2 参照）。

控 (kong) — コンプレクス 爱豆 (ai dou) — アイドル 纳尼 (na ni) — なに
库索 (ku suo) — くそ 萝莉 (luo li) — ロリータ 卡哇伊 (ka wa i) — 可愛い
欧巴桑 (o ba sang) — おばさん 榻榻米 — たたみ

総数は上記計 8 語である。

上述の高名凱・劉正琰による「音訳借用語＝借用語」という判断基準に従えば、本稿で取り上げられる対象語彙（表 2 参照）は殆ど考察の対象から外れることになる。沈（1994）は他の外国語と比較すると、音声借用を伴わないのが日本語借用語の最も大きな特質であるため、「(1)他の外来語研究における音転写及び、その過程に起きた一連の音韻的現象は、日本語借用語の研究において、研究対象とならない。(2)音声を手掛かりに語の出自を考察することが不可能である。」という二つの特徴的な事柄を指摘している。したがって、本研究では、中国語における日本語借用語の特殊性に鑑み、沈と同様に「音訳借用語＝借用語」という理論を認めない立場を取ることにする。

一方、「熬点」のような「音訳兼意識借用語」も存在する。「熬」は「煮る、茹でる」という意味で、「点」は「軽食」という意味であるため、二つを総合すると、「熬点」は「煮込んだ軽食」を意味する。しかも、「熬点」の発音は[ao dian]であり、日本語の「おでん」の音訳でもあると言える。

3.2 語形借用語

Masini（1993）によると、「語形借用語」とは意味だけでなく、字形もそのまま受容した語であり、元々の発音にこだわることなく、自国語で発音する語を意味する。

一方、「意譯語 (semantic)」という概念は Masini により提起されたものであり、中国語の既成の語形に新たに意味を付与する借用語を指す。つまり、意味をそのまま借用するだけでなく、日本語の漢字の語形を中国語の漢字にも変換する。これは Betz の分類法の⑤意味借用語（他言語から意味内容をすでに存在する自国語で表す）という分類に相当する。

借用語の種類	借用の方法	語例
意形借用語 ⁷	語形と語義ともに受容する	登校、定番
意味借用語	中国語の既成語に日本語の意味を付与する	崩壊、本命、達人

表 1

表1のように、語形借用語は大きく意形借用語と意味借用語に分類できる。更に、収集したデータを分析すると、半数以上の借用語が語形借用語であることが分かる。

「熟女」、「腹黒」のように、語形をそのまま受容する一方、日本語本来の意味がすでになくなり、新たな意味が生じる例が他にも多数存在している。

3.3 意識借用語

これは Betz (1974) の直訳借用語といえる。即ち、直訳借用語とは他言語の語彙をまず構成要素に分解し、各要素をそれに相当する自国語の語彙に翻訳して取り込む語である。高・劉 (1958) は「意識借用語」には二種類あると述べている。一種類は自己の言語に現在存在する単語で外国語を翻訳することである。例えば、英語の「water」は中国語で「水」と訳すなど。もう一種類は他の言語から自己の言語には存在しない概念を翻訳することである。

前者は単なる翻訳で明らかに借用語とはなり得ない。『応用言語学事典』の解釈によると、借用 (borrowing) とはある言語 (またはその変種) が他の言語から、それまで自分の言語になかった要素を取り入れることを言う。借用は単なる語形や意味の借用のみならず、音素、形態素、語彙項目、統語規則、意味や語法など、すべての領域にわたって見られる⁸。したがって、後者は借用語であると言える。しかし、自国語に存在する構語成分を使用して新しい概念を翻訳することは借用であるとは限らない。例えば、「ロボット」はチェコの劇作家チャペックの作品に登場する人型の機械に由来する語である。これは日本語にも、中国語にも存在しなかった概念であるため、日本人は「ロボット」と訳すのに対して、中国人は「机器人」と訳す。日本語の「ロボット」は明らかに「robot」の音訳で、音訳借用語に当たる一方、中国語の「机器人」は単に robot という新しい事物に中国語の形態素を用いて新しく名前を与えたに過ぎない。意識については、孫 (1957) は「借用語を「音声借用」によるものと「表記形式」の借用によるものとの二つに分け、日本語からの借用語を後者に属する、外来語の中の特殊な種類である」と指摘している。したがって、日本語からの意識借用語は研究対象となり、具体的に分析する必要があると考えられる。そのほか、対象となる語には「森ガール」のように、一部を翻訳して借用する例がある。「ガール」は中国語の「女」の意味で、「森ガール」は「森女」と訳されている。

更に、「宅急送」と「逆生長」のように、漢字使用の習慣に従って、日本語を部分的に修正して中国語に受容する、即ち「部分修正語」の例も存在する。

具体的な分類は次の表参照。

借用語の種類	借用の方法	語数	語例
音訳借用語	日本語の発音を漢字で表記する	8	控、爰豆、纳尼
音訳兼意味借用語	発音だけでなく、意味もそのまま受容する	2	熬点、吐槽
意形借用語	語形と語義ともに受容する	123	登校、毒舌、定番
意味借用語	中国語の既成語に日本語の意味を付与する	34	崩坏、本命、达人
意識借用語	日本独特の意味を翻訳して受容する	4	黄金周、傲娇、治愈
部分意識語	一部を翻訳して借用する	5	森女、现充、壁咚
部分修正語	漢字使用の習慣に従って、日本語を部分的に修正して中国語に受容する	4	便当、宅急送、逆生長、艺能界

表 2

表2から見ると、現代中国語における日本語からの借用語について、それらを音訳借用語、音訳兼意識借用語、意形借用語、意味借用語、意識借用語、部分意識語と部分修正語の7種類に分類することができる。また、「音訳借用語」、「意識借用語」、「意形借用語」などのような元々存在している分類に属する語がある一方、「音訳兼意識借用語」と「部分意識語」という従来見られなかった二つの新しい種類を確認することが可能である。

4. まとめ

本稿は現代中国語における日本語からの借用語の種類について分析したものである。その成果としては、まず、本稿は主に2000年以降から現在までの借用語を中心として、これまで分析されていない中国語の新語における日本語借用語を具体的に分類し、その異なる特徴を明示した。更に、「部分意識語」という新しい概念を提起して分析した。しかし、対象語彙についてその数が限られているため、まだ検討されていない借用語もある。また、一時的に使用され、次第に廃語になる語（流行語）もあるため、インターネットの普及を背景として更なる分析が必要であると考えている。

注

- (1)沈国威 (1994) は『近代日中語彙交流史』で「近代」という語は「1840-1919」の期間を意味すると述べている。
- (2)本稿の「現代」は21世紀から現在に至るまでの時期を指す。
- (3)ここでは吉田雅子 (2008) の翻訳を引用する。
- (4)高名凱・劉正琰 (1958) 『現代漢語外来語研究』 P82-88
- (5)Masini による意譯語 (semantic) とは他言語から新しい意味を取り入れた元々存在する語のことである。本稿で取り上げた「意識」の概念とは異なるため、「意譯」と訳す。
- (6)河野 (2000) がポルトガル語に見る日本語からの借用語の分類基準を一部参考にした。
- (7)Masini は「語形借用語」とは意味だけでなく、字形もそのまま受容した語であると述べている。本稿では「意味借用語」と区別するため、「意形借用語」という用語を作った。
- (8)『応用言語学辞典』(2012) 研究社 P331

参考文献

辞書類

- 『広辞苑』第六版 (2008) 新村出編
『現代漢語詞典』第六版 (2012) 商務印書館
『古代漢語詞典』(2003) 商務印書館
『新華網絡語言詞典』(2012) 商務印書館
『応用言語学辞典』(2012) 研究社

単行本

- Federico Masini(1993)The Formation of Modern Chinese Lexicon and its Evolution toward a National Language : The Period from 1840 to 1898, UC Berkeley.
高名凱・劉正琰 (1958) 『現代漢語外来語研究』文字改革出版社
荻野蔵平 齋藤治之 (2015) 『歴史言語学とドイツ語史』同学社
沈国威 (1994) 『近代日中語彙交流史—新漢語の生成と受容』 笠間書院
譙燕・徐一平・施建軍 (2011) 『日源新詞研究』 学苑出版社
孫常叙 (1957) 『漢語語彙』 吉林人民出版社

論文

- Werner Betz(1974) Lehnwörter und Lehnprägungen im Vor- und Frühdeutschen. In: Deutsche Wortgeschichte. Hrsg. von Friedrich Maurer und Heinz Rupp. 3. Auflage. de Gruyter, Berlin, S. 135-163

- 飯島一泰（1987）「語彙借用の分類および述語について」『言語文化（一橋）42』
- 王立達（1958）「現代漢語中従日語借来的語彙」『中国語文』2月号 P90-94
- 河野彰（2000）「在日ブラジル人のポルトガル語に見る日本語からの借用語」国立国語研究所『日本語と外国語との対照研究 VII 日本語とポルトガル語』 P53-92 くろしお出版
- 斉藤佑太郎（2012）「現代中国における日本語語彙受容についての研究—改革・開放後に現れた新語に着目して—」『岩大語文』 Vol. 17, (2012), P22-35
- 鈴木俊二（2002）「借用語の理論—その範囲と社会・文化的要因」国際短期大学紀要 17号
- 張黎（2015）「中国の新語における日本からの借用語について—メディアの使用状況を中心に—」『言語文化論叢』 (9), P31-47
- 吉田雅子（2008）「日本語起源の借用語と現代中国語—対于をめぐって—」『現代の搭載文化交流の行方—国際化と世界化の光と影—』大阪教育図書株式会社 P26